

硫黄島の火山活動（2017年9月～2018年1月）*

Volcanic Activity of Ioto Volcano (September 2017 – January 2018)

気象庁地震火山部火山課
火山監視・警報センター

Volcanology Division, Japan Meteorological Agency
Volcanic Observation and Warning Center

○概況（2017年9月～2018年1月20日）

・噴煙など表面現象の状況（第1～2図）

阿蘇台東（阿蘇台陥没孔の東北東約900m）に設置してある監視カメラでは、島西部の阿蘇台陥没孔からの噴気はやや多い状態で、噴気の高さは概ね100m以下で経過した。また、島北西部の井戸ヶ浜からの噴気は観測されなかった。

・地震活動（第3図）

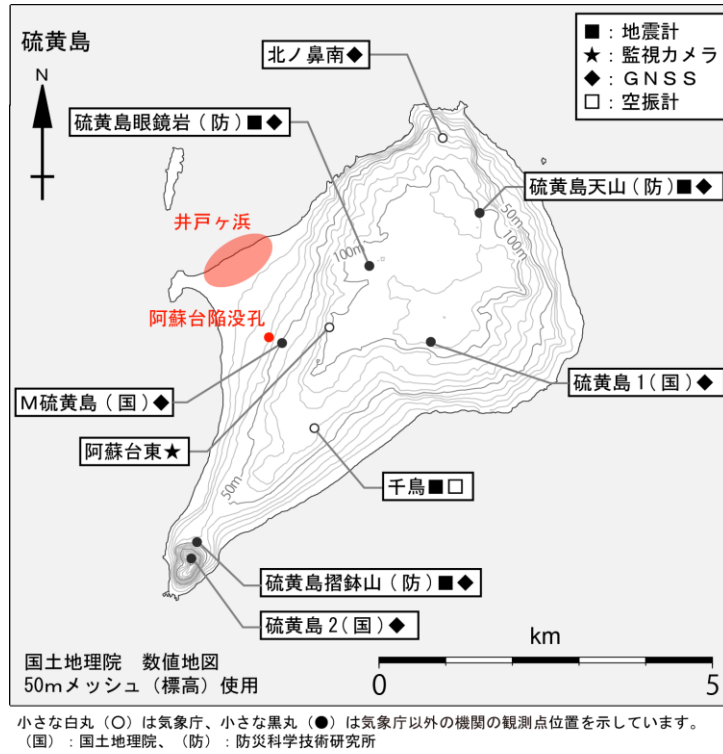
火山性地震は概ねやや多い状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

・地殻変動（第4～5図）

GNSS連続観測によると、地殻変動は隆起・停滞を繰り返している。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

* 2018年4月12日受付

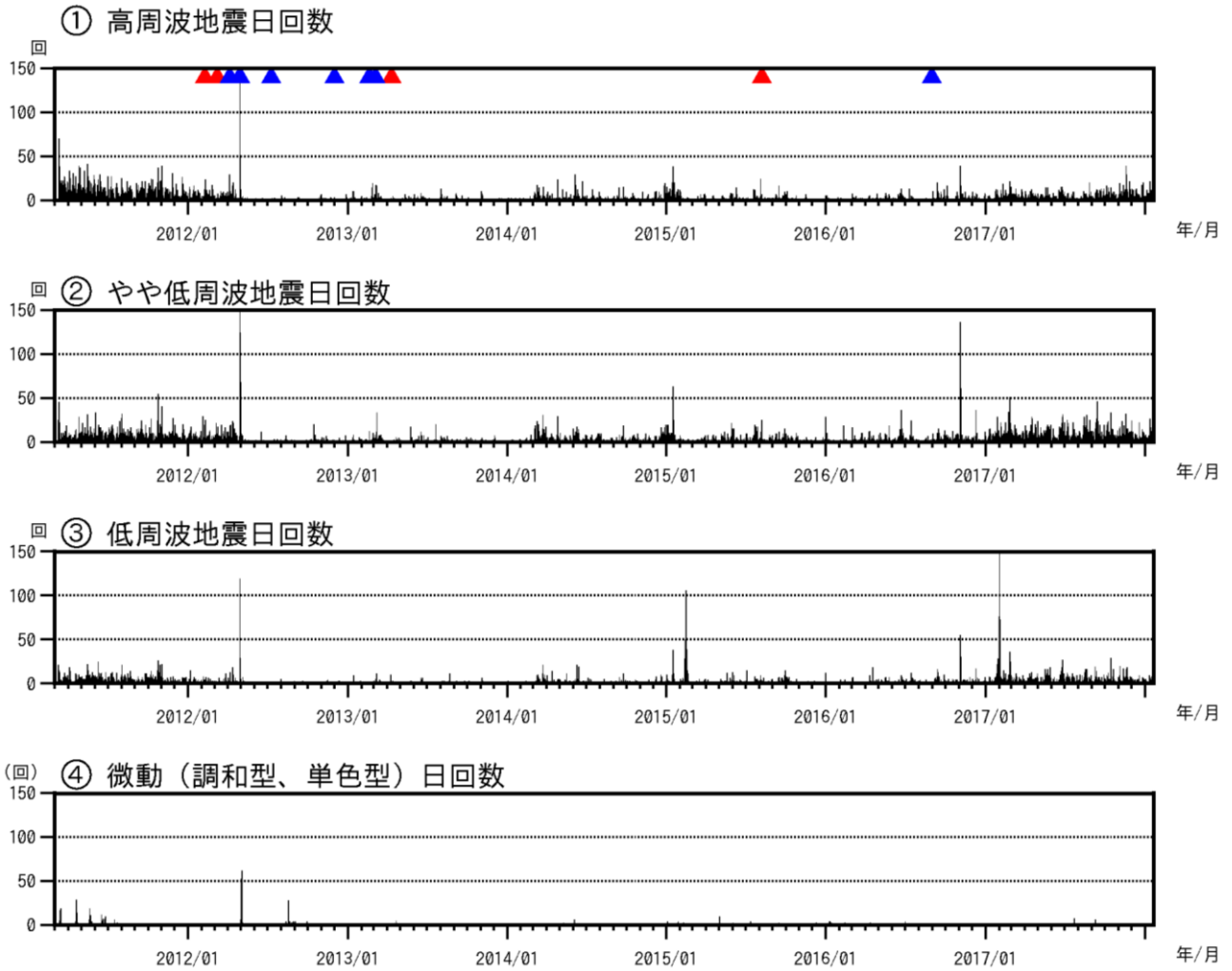


第1図 硫黄島 観測点配置図
Fig. 1. Location map of observation sites.

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』及び『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



第2図 硫黄島 噴気の様相
Fig. 2. Visible images of Ioto.



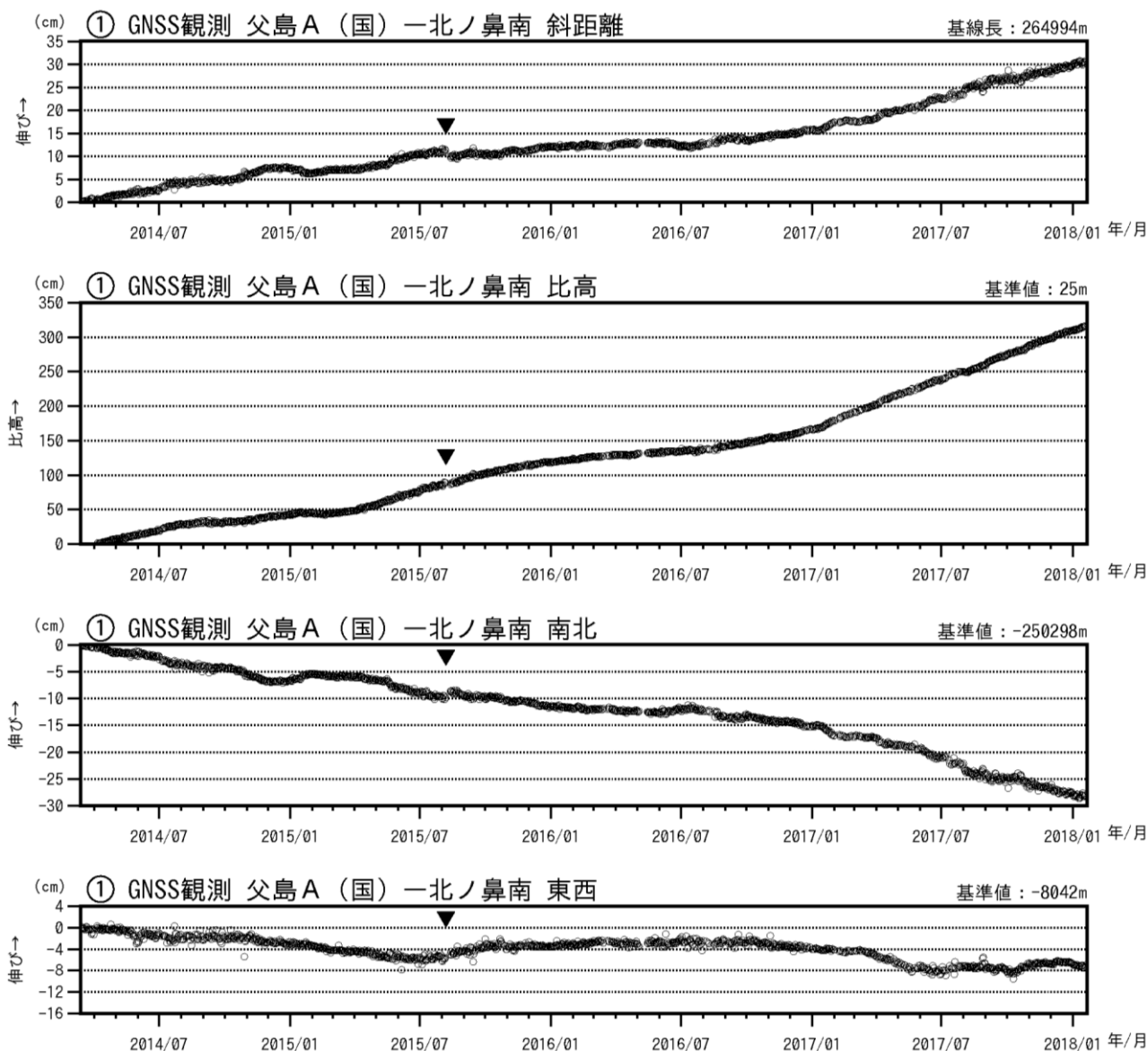
第3図 硫黄島 火山活動経過図（2011年3月8日～2018年1月20日）

Fig. 3. Volcanic activities of Ioto from March 8, 2011 to January 20, 2018.

震動観測：2011年3月8日運用開始

【計数基準】

- ・2011年3月8日～12月31日：千鳥 $30 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 2.0 秒以内、あるいは
（防）天山 $20 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 2.0 秒以内
- ・2012年1月1日～：千鳥あるいは（防）天山で $30 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 2.0 秒以内



第4-1図 硫黄島 GNSS連続観測結果(2014年3月13日~2018年1月20日)

Fig. 4-1. Results of GNSS continuous observation on Ioto from March 13, 2014 to January 20, 2018.

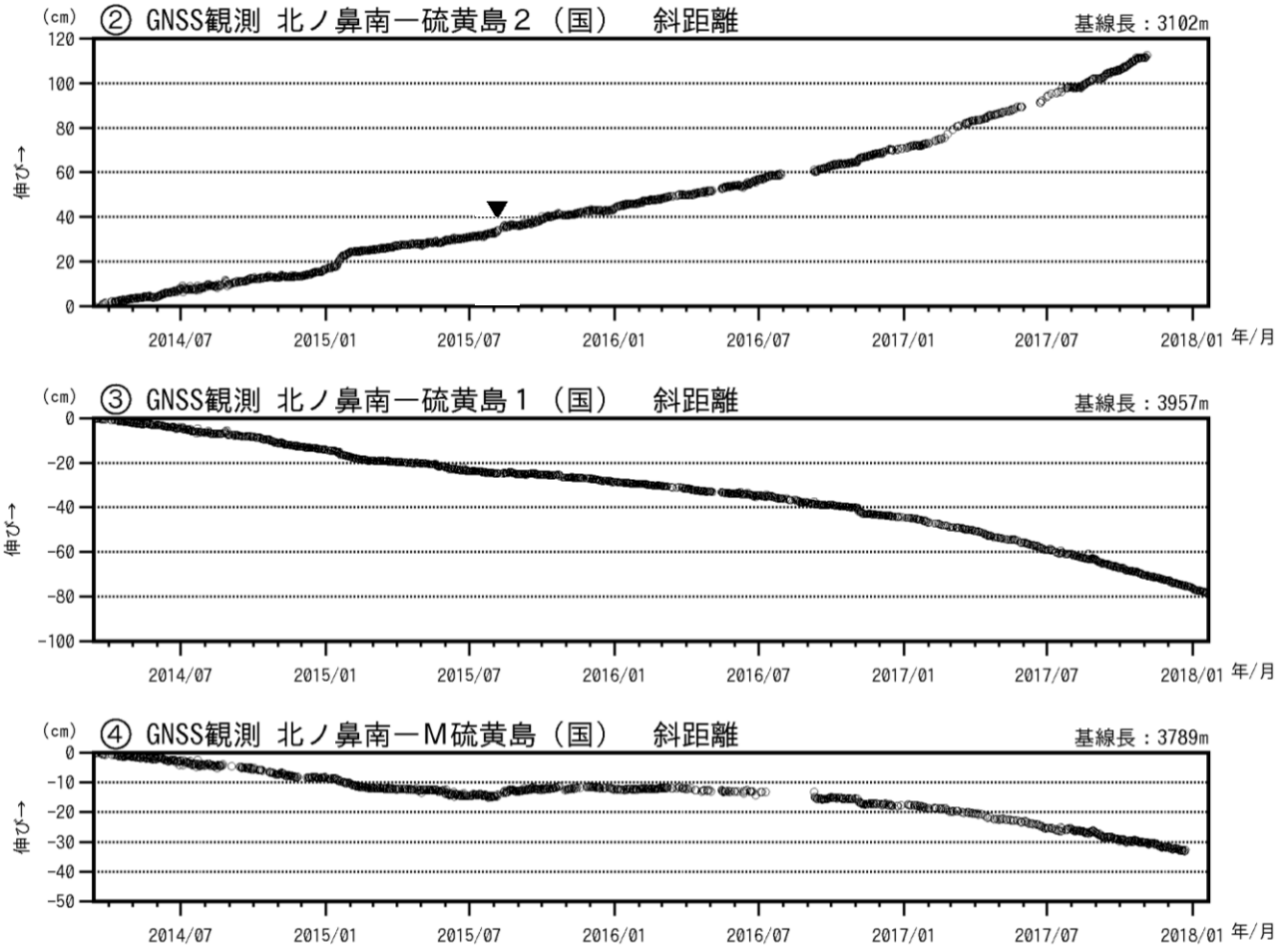
(国): 国土地理院

基線①(父島A(国)一北ノ鼻南)は第5図の①に対応する。

グラフの空白部分は欠測。

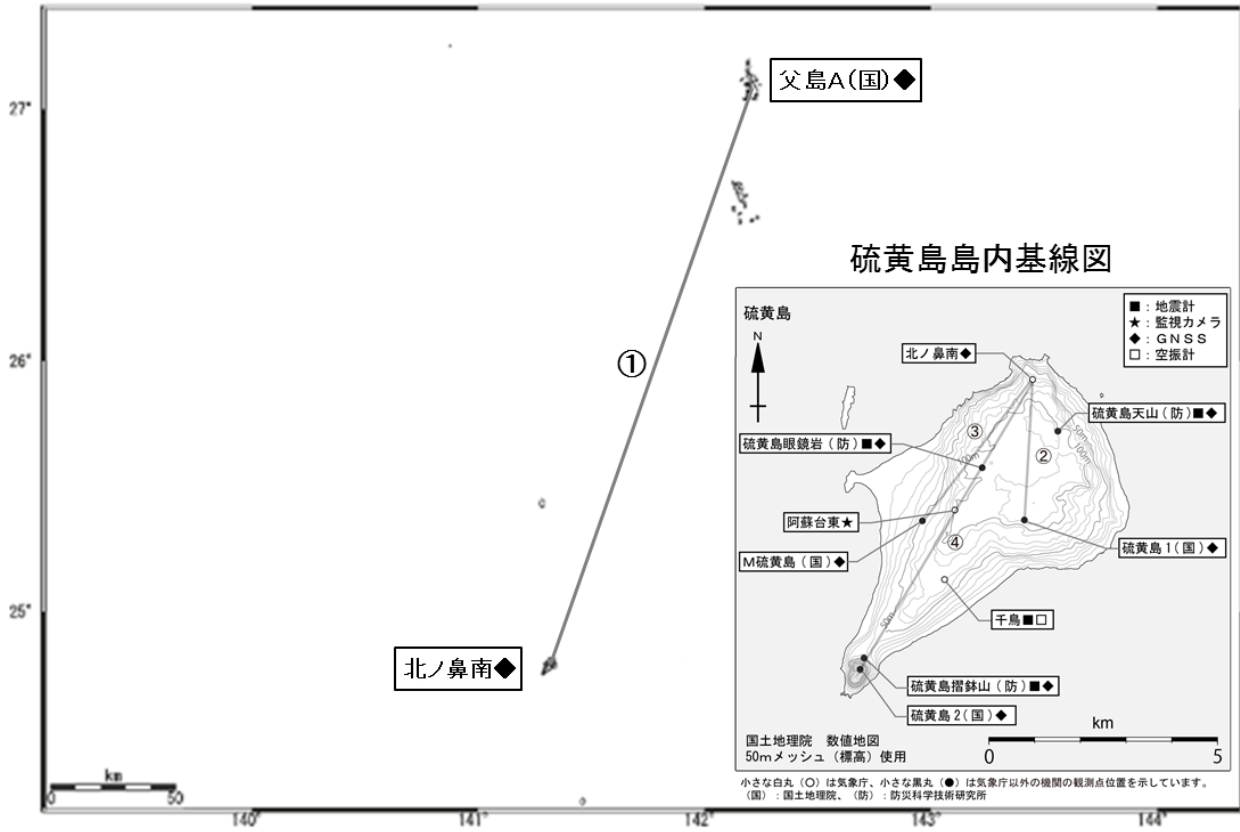
北ノ鼻南は2014年3月13日から観測を開始した。

- ・▼は、2015年8月7日の噴火に対応した地殻変動と考えられる。
- ・2014年2月下旬頃から隆起・停滞を繰り返し、2015年3月頃から隆起速度が上がった。
- ・2015年10月頃から隆起速度が鈍化したが、2016年8月以降はまた隆起速度が上がっていて、2015年3~10月頃の隆起速度に戻っている。



第4-2図 硫黄島 GNSS連続観測結果(2014年3月13日~2018年1月20日)
 Fig. 4-2. Results of GNSS continuous observation on Ioto from March 13, 2014 to January 20, 2018.

(国): 国土地理院
 基線②~④は第5図の②~④に対応する。
 グラフの空白部分は欠測。北ノ鼻南は2014年3月13日から観測を開始した。
 ▼は、2015年8月7日の噴火に対応した地殻変動と考えられる。



第5図 硫黄島 地殻変動連続観測点配置図

Fig. 5. Location map of GNSS continuous observation sites.

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』及び『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。